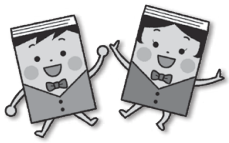
株式会社 少年写真新聞社 〒102-8232 東京都千代田区九段南３－９－14 HF九段南ビル　ホームページ：https://www.schoolpress.co.jp/
少年写真新聞 Juniors' Visual Journal

小学図書館ニュース

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が変わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きご送付申し上げます。
★著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

令和５年10月28日発行　第1308号付録



©少年写真新聞社 2023

徳川家康の歴史的位置と役割

東京学芸大学 名誉教授　大石学

織田信長（一五三四～八二）、豊臣秀吉（一五三七～九八）、徳川家康（一五四二～一六一六）は、その個性を示すホトトギスの句として、「殺してしまへ」（信長）、「なかして見せふ」（秀吉）、「鳴まで待よ」（家康）が知られています。家康は、鳴くまで待つという我慢強さが詠まれています。また、「織田がつき、羽柴がこねし天下餅、すわりしままに食うは徳川」という歌もあります。ここでは、信長と秀吉が苦労してつくった成果を、家康が苦労せず手に入れたとの老獪さを詠んでいます。

いずれにしても、彼らはリレーをするように、戦国時代に幕を下ろし、春を告げるホトトギスを鳴かせ、「平和」（天下太平）の餅をつきあげたのです。ただ、ホトトギスの声を聞き、餅を食べたのは、家康だけではありませんでした。江戸の人々もまた、「平和」の恩恵を受けたのです。

江戸時代、日本は二五〇年以上の間、内戦や対外戦争がほとんどない、世界史上稀有な長期の「平和」を実現しました。江戸時代が、一〇〇年以上に及ぶ戦国時代を克服して成立したことを考えると、この意義は重要です。人を殺せば殺すほど、人の土地を奪えば奪うほど英雄になる時代から、人を殺せば、あるいは土地を奪えば犯罪とされ罰せられる時代へと大きく転換したのです。そして、この転換の基礎には、武器を自由に所有・使用し、武力で問題を解決したり、古代以来、神仏を頼り呪術的に正否を決したりする社会から、兵農分離により武器の所有・使用を限定しつつ、法にもとづく裁判により正否が決まる社会への変化がありました。国家的に武器所有を認められた武士たちも、自らの判断でそれを使用することは厳しく禁じられました。家康の天下統一により、列島規模で「平和」が到来したのです。

家康は、対外関係も整備しました。その中心は、朝鮮との国交回復です。文禄元年～慶長三年（一五九二～九八）に、豊臣秀吉が二度にわたり朝鮮を侵略し、来援の中国軍も交えた大戦争で朝鮮社会に多大な被害を与え、日本と朝鮮は国交断絶状態にありました。しかし、家康は対馬藩の協力を得て、慶長一二年に朝鮮から使節を迎え、侵略の際に日本に連行した朝鮮人たちを帰国させ、同一四年には両国の友好関係を約す己酉約定（通商修好条約）を締結しました。こののちの寛永一三年（一六三六）から文化八年（一八一一）まで九回の通信使が来日し、学問・文化の交流を行います。家康により日朝関係は回復したのです。家康に始まる江戸幕府は、中国やオランダとも交易関係を結び、国際関係を安定化させました。家康は、国内関係・対外関係両面において、大きな役割を果たしたのです。

そして、家康はこれら「平和」の拠点として、江戸に首都を建設しました。古代以来、飛鳥、奈良、平安、大坂など、日本の首都は畿内に置かれていました（鎌倉時代は、武士が全国的に軍事・警察部門を管理しつつも、政治の中心は京都に置かれました）。家康は、こうした畿内中心の政治制度を大きく変更し、当時のフロンティア江戸に首都を構えたのです。こののち江戸を中心に展開する長期の「平和」は、今日「和風」「日本風」とよばれるさまざまな制度・システム・文化・習慣を形成し、明治以降の西洋化・近代化に先行する日本型の文明社会を築きました。

現在、環境・格差・戦争など、地球規模でさまざまな問題が噴出し激化する中で、ＥＤＯ ＪＡＰＡＮのシステムや文化は世界から注目されています。家康の遺産は、地球の未来への手がかりとして重要な意義を有しているのです。